

要求分析のための質的調査に基づくAsWas-AsIs分析手法の提案

日産自動車株式会社

実験技術開発本部 計測技術部

渡辺 将弘

wa-masahiro@mail.nissan.co.jp

要求分析における問題点

AsIs-ToBe分析では、最初にAsIsモデルを作成し、AsIsモデルにおける課題を抽出しゴールを設定する。その設定されたゴールに基づいてゴール分析を行うことによって課題を解決する手段を導出する。これによって、課題を解決できるToBeモデルを作成できるとされる。しかし、AsIsに至る歴史的経緯によってToBeは異なるはずである。

手法・ツールの提案による解決

ToBeモデルを作成する為に、AsIsに至る(AsWas-AsIs)までの歴史的経緯をゴール指向分析手法であるi*の戦略依存モデルを用いて抽出する。また、AsIsに至るまでのi*の戦略依存モデルを作成するために、必要な情報を持った最適な人材を探し出す手段として質的調査を用いる。

1. 適用対象の概要

□内製計測システムのユーザ(走行実験部署)

走行実験部署の業務例

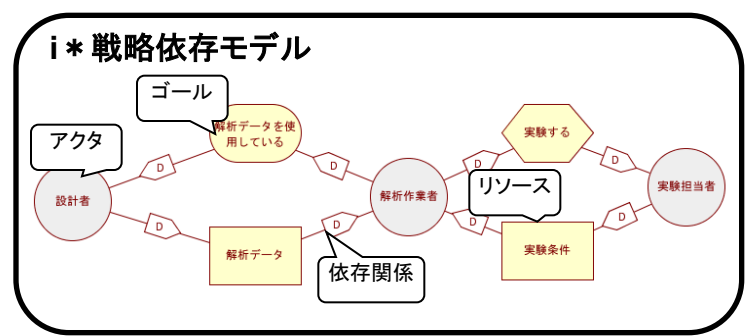


冠水路走行実験

寒冷地走行実験

2. i* 戦略依存モデル

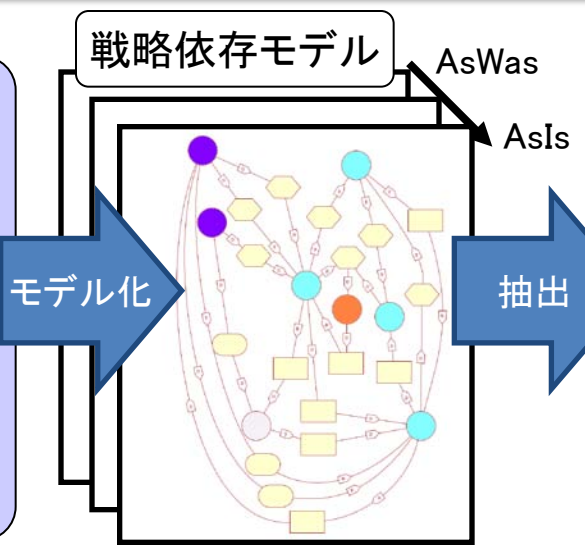
□ゴール,リソース,プロセス,ルールによって構成されるビジネスモデルのうち、ゴールおよびリソースの依存関係を表現する。



3. 歴史的経緯の抽出

質的調査

- 業務内容インタビュー
- ユーザ業務体験・遂行
- 作業観察・分析
- 業務エキスパートの搜索



ToBe分析への準備

- i*の戦略依存モデルにおけるアクタ間の依存関係の変化
- i*の戦略依存モデルにおけるアクタ自身の役割の変化
- 対象組織に期待されている姿の変化。

4. 適用対象における考察

本手法を新規計測システムの要求分析活動に適用した。適用対象のAsWas-AsIs分析より多くのアクタが特定アクタに依存関係を持っている事が分かった。依存関係の偏りを解消するためにアクタ自身の役割の歴史的経緯に着目し、アクタの抽象化を行ったToBeモデルを作成した。このToBeモデルに基づき、将来システムの要求獲得のステークホルダを明らかできた。